

17. 中山間地域に暮らす住民のソーシャルキャピタルに関する研究

グループ農業活動によるソーシャルキャピタル醸成の可能性の検討

吉村隆（長野県看護大学大学院）、北山秋雄（長野県看護大学）

今日わが国においては、少子高齢化の問題に加えて重要なものが過疎化の問題である。とりわけ中山間地域においてはその傾向が顕著でありさまざまな問題が表面化している。このように私たちが対象とする地域環境の変化が著しい今日、その変化に対応できる質の高い地域づくりを目指すことが急務である。本研究ではその知見を紡ぎだすための基礎資料を作成することを目的とし、中山間地域で行われる遊休農地を利用したグループ農業活動によるソーシャルキャピタル醸成の可能性について検討した。グループ農業活動の中には集落機能や、暮らしの中で育まれた経験や知恵等の伝承の存在が感じられ、こういった社会的、文化的要因が地域住民の生活や健康に多角的に影響を及ぼしているということが明らかとなった。

キーワード：中山間地域、ソーシャルキャピタル、グループ農業、女性高齢者、遊休農地

A. 目的

近年、過疎化や高齢化等で荒廃が進行している遊休農地を上手く活用することができれば、地域住民の疾病予防効果はもとより、健康の保持増進や地域社会の活性化、さらには、農地（国土）の保全と環境に配慮した資源循環型社会の実現といった、地球環境をも視野に入れた効果の発揮が期待される。

また、地域住民が自らの地域の問題や、自身の健康問題を認識し、自らができる対策を探求しそれに取り組んでいくという体験をすることで、自己の健康づくりに関する自立と能力の向上（エンパワメント）が促進され、健康寿命の延伸あるいは中山間地域の活性化につながる事が考えられる。

特に中山間地域で問題とされている少子高齢化や過疎化による問題を含め、中山間地域の急速な環境変化に対応できる質の高い地域づくりを目指すことが急務である。そこで本研究では、その知見を紡ぎだすことを目的とし、中山間地域で行われる遊休農地を利用したグループ農業活動によるソーシャルキャピタル醸成の可能性について検討した。

B. 方法

1) 操作上の定義

ソーシャルキャピタル（Social Capital）については、様々な議論がなされているが、本研究ではPutnamの定義を援用し「人々の協調行動を活発にすることによって社会の効率性を高めることのできる、信頼、互酬性の規範、ネットワークといった社会組織の特徴」とする。

2) 対象

長野県下伊那郡大鹿村上蔵地区で行われる、遊休農地を利用したグループ農業（名称：楽姓クラブWAZO）に参加する女性高齢者

3) 期間

2009年8月から9月

4) 分析方法

参加観察およびインタビューによりエスノグラフィ的な手法で調査、分析を行った。

5) 倫理的配慮

インタビュー実施に係る承諾は事前に得ておいた。そして、当日のインタビュー前に協力依頼文書を全員に渡し説明し、了承を得てからインフォーマル・インタビューを実施した。インタビューは録音せずメモをとり、その日のうちにフィールドノートにまとめた。

C. 結果

調査によって、下記のようなことが明らかとなった。

- 1) 雑草が生い茂る遊休農地の存在は、地区内で問題となっており地域住民共通の悩みであった。それを解決するために楽姓クラブWAZOが、「上蔵地区の玄関口の景観をよくする」という合言葉によって発足した。
- 2) 上蔵地区は合計36世帯で5つの班に分けられているが、そのほとんどの班に楽姓クラブのメンバーが所属しているため、グループ農業活動は地区をあげての活動という色彩が強い。
- 3) 主に地域の特産物の作付けがされているが、その中でもこだわりをもって作付けされているのが、大鹿村の土地、気候、風土が育てた幻の大豆（中尾早生）である。
- 4) 主要な作物の収穫後には2種類の蕎麦を植え、紅白に咲く蕎麦の花を観光客をはじめ多くの人々に観賞してもらうよう農地を利用している。
- 5) 毎回の作業は女性が中心となっておこなっているが、農地の畝作りやシート張り、耕運機の使用や杭打ちなどの力仕事には、メンバーの夫が積極的に協力している。
- 6) 作業中の会話からは、そこに暮らす人々が自然の一部となり、自然との調和を図りながら生きてい

ることが感じられ、中山間地域という物理的にも限られた生活環境の中で生き抜くための不可欠な数々の情報交換がなされていた。

- 7) 楽姓クラブは、クラブが主催する上蔵雑穀まつりをはじめ、地域の産業文化祭や地元小学校など地域と積極的に関わっており、世代間交流や地域固有の文化や伝統を継承する装置としての機能を有していた。
- 8) 休憩中に出される自家製のお茶請けには、食を通じた地域の歴史や伝統を受け継ぐという中山間地域の特性あらわれていた。
- 9) 農業が行われない冬季は地区内の集会所が主な活動の場となり、クラブのメンバーの一人が講師となった手芸教室などが定期的で開催され、地域住民相互の安否確認や情報交換などがされているようである。

D. 考察

「上蔵の玄関口の景観をよくしたい」という思いに駆り立てられ楽姓クラブを発足させたことにみてとれるように、クラブの発足には地域住民の心理・感情的要因が大きく影響したと考えられる。このように自らの地域の活性化のために住民同士が目標を共有し、自らが考え、力を合わせ活動したことが、一目で上蔵だとわかるアイデンティティを景観の上で確立することにつながったと考えられる。

高齢者の心身の健康に関する研究は数多くあり、ここでは生きがいや生活満足度など種々な従属変数が用いられているが、グループ農業活動はこういった変数に貢献することが十分に考えられる。

グループ農業の一連の活動の中には、農業にまつわる知恵だけでなく、地域で暮らすためのノウハウに関連した多用な知識や技術が局在することをさける役割があると考えられ、これは結果的に各個人がどんなことでもできるということにつながっていく。特にこういった場面は、集落機能が十分に発揮されている部分であると考えられ、ここにグループ農業活動を通じた中山間地域の特徴があらわれていると考えられる。このような中山間地域の特有な環境と地域住民の生活や健康との関連性がグループ農業活動を通して現れることは、これらの活動の健康への貢献を示唆するものであると考えられる。

20代半ばで神戸より移住した30代後半の女性の発言は、中山間地域という定住性の高い社会における子育てのありかたを映し出している一場面であると考えられ、育児に関する様々な問題が表面化している現代社会に対して重要な示唆を含むものである。

地域性を感じとることができる自家製のお茶請けの存在からは、食を通じ地域の歴史や伝統を受け継ぐという中山間地域の特性が感じられた。

農業がおこなわれない冬季の手芸教室などの開催は、中山間地域という物理的にも限られた生活環境の中で生きがいをもって安心して生きていくために重要な役割を果たしているようである。

グループ農業の場でなされる様々な情報交換は、個人がソーシャルサポートを入手するために重要であると考えられ、またそういった現場に看護職が介入することができれば中山間地域という特殊な生活環境における住民の健康に関する多様なニーズの把握と実践が可能になるのではないかと考えられる。

グループ農業活動を通じ自らの地域の問題や、自身の健康問題を認識し、自分たちができる対策を探求しそれに取り組んでいくという体験は、地域住民のネットワークを強化し相助的機能を高めることにつながる。また、グループ農業活動の中に、社会結合や規範形成、あるいは信頼形成の基礎となる自発的協力を促す要素が含まれることは、これらの活動によりソーシャルキャピタルが醸成されるということを示唆するものであると考えられる。

E. まとめ

中山間地域で行われるグループ農業活動の中には、地域の歴史や伝統の継承、地域農業資源の維持管理機能、農業生産面での相互補完機能、生活面での相互扶助機能といった集落機能や、暮らしの中で育まれた経験や知恵等の伝承の存在が感じられる。こういった社会的、文化的要因が、地域住民の生活や健康に多角的に影響を及ぼしているため、健康面などへ貢献する可能性が非常に大きいと考えられる。また今回の調査では、従来のソーシャルキャピタルの概念では捉えきれないような、わが国の中山間地域特有のソーシャルキャピタルを醸成する要素の存在を感じた。

今後は、遊休農地を利用した中山間地域のグループ農業活動が、参加者の心身の健康や、生活にどの程度、そしてどのように影響するかを多角的かつ具体的に明らかにし、遊休農地利用の方策と有効性を検討していくとともに、わが国の中山間地域特有のソーシャルキャピタル醸成要素を明らかにしていくことが重要であると考えられる。